

淀川左岸線（２期）事業に関する技術検討委員会

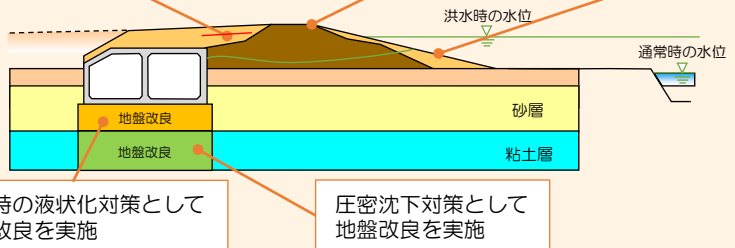
「淀川左岸線（２期）事業に関する技術検討委員会」は、淀川左岸線（２期）事業の実施にあたり、道路ボックスと堤防を一体構造とした構造物の安全性、施工方法、維持管理手法等について技術的な検討事項の審議を行うことを目的とした委員会であり、2011年5月より審議が開催され、2017年11月に技術検討報告書を取りまとめました。

○ 道路ボックスと堤防の安全性（技術検討委員会による）

降雨時に堤防内の水位上昇を防ぐために降雨浸透対策を実施

大規模地震により堤防が沈下しても必要な堤防高さを確保

洪水に対して堤防が浸食されないよう、護岸ブロックを設置



環境への影響について

淀川左岸線（２期）事業を進めるにあたり、環境の保全について適正な配慮を行っていく一環として、近年の自動車排出ガスに係る規制等の動向など、最新の状況や知見に基づき、大気質や騒音等の生活環境、動物や植物等の自然環境について、環境への影響に関する予測を2015年度に行いました。以降、予測内容を踏まえ、具体的な環境保全措置について検討し、必要に応じた対策を実施するなど、環境の保全に努めております。

（生活環境）

大気質・振動・低周波音の予測値については、基準値や参考となる値を下回ることを確認し、騒音の予測値については、基準値を下回る、もしくは、計画道路に環境保全措置を講じることによって、現状レベルから増加しないことを確認しました。

（自然環境）

現地調査を実施した上で、計画道路による直接改変など、事業による影響が大きいと予測される重要種及び重要な生態系の把握を行いました。

↓なお、詳細は以下の大阪市ホームページアドレスか右のQRコードからご確認ください。

<https://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/cmsfiles/contents/0000326/326803/haifu2.pdf>

QRコードは
こちら



淀川左岸線（２期）関連街路事業

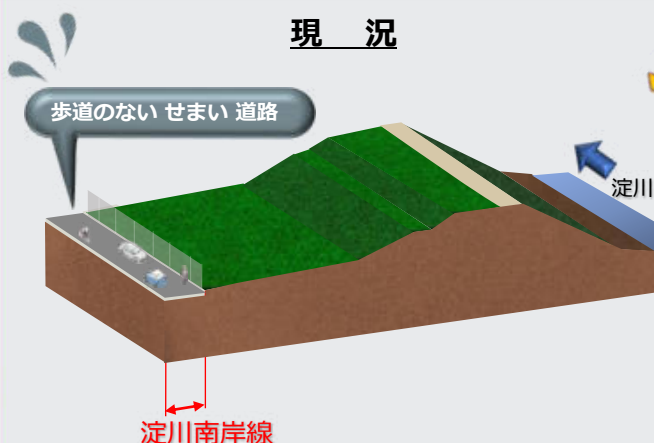
都市計画道路 淀川南岸線

現在の河川沿いの道路は、淀川左岸の周辺地域を東西方向につなぐ路線ですが、道路幅が狭く、歩道が未整備なため危険な状態となっています。

淀川南岸線事業は、淀川左岸線（２期）事業と合わせて道路拡幅を行い、歩道の設置や車道幅を確保することで、歩行者等の安全性や沿道地域の利便性を向上させる目的の街路事業です。

淀川南岸線 完成イメージ

現 況



完成イメージ

